

考えよう やって良いこと 悪いこと

〜マンガを読んで〜

(高学年用)

作：神奈川県警察本部少年育成課 小島久美子
絵：神奈川県警察本部少年育成課 平野洋子

【表紙】

演出ノート



子ども達に語りかける。

今日は、「やって良いこと、悪いこと。」について、皆さんと一緒に、お勉強していきまじょう。

それでは、紙芝居のお話を聞いて下さい。

途中で、私が、皆さんに、

これは、警察に捕まる犯罪になるでじょうか。

それとも、犯罪にはならないでじょうか。

とか、

「いついつときは、どつすれば良いでじょうか。

などと質問します。

皆さんは、良くお話を聞きながら考え、手をあげて答えて下さいね。

それでは、

「考えよう。 やって良いこと 悪いこと。 マンガを読んで」

の始まり始まり。

【場面】

ジャイ介君、すね吉君、ウルサちゃんの三人は、ジャイ介君の家に集まり遊んでいます。

すね吉君は、ジャイ介君からマンガを借りて読み、笑い転がっています。

ジャイ介 「それ、おもしろいだろー。」

ジャイ介君が言うと、ウルサちゃんは、

ウルサ 「えーっ。そんなにおもしろいの。私にも読ませて。」

と、言いました。すね吉君が、

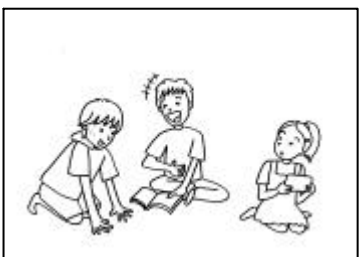
すね吉 「あー、もっと読みたいなあ。この続き、まだ出てないの？」

と聞くと、ジャイ介君は答えました。

ジャイ介 「もう、二巻は売ってるよ。すね吉君も、話の続き、気になる？」

すね吉 「もちろんだよ。ジャイ介君、買わないの？」

ジャイ介 「うん。買わないよ。」



演出ノート

- ・ナレーションはゆっくり
- ・愉快そうに
- ・興味を示して
- ・残念そうに
- ・興味を誘うように
- ・不思議そうに
- ・当たり前のように

【場面】

ジャイ介 「だって、そのマンガ、僕が万引きした物なんだ。
なんか、買うのは、小遣いもったいない気がする。
て。」



演出ノート

・自慢げに

子ども達に語りかける。

皆さん、万引きと言うのは、お店の物をお金を払わず持ってきてしまうことで、警察に捕まる犯罪です。

それでは皆さんに質問します。

今のお話のように、友達から「自分は、万引きしているんだ。」と聞いたとき、皆さんだったら、どうしますか。

- 1 注意をする。
 - 2 おうちの人や先生に教える。
 - 3 その他の方法をとる。
- 3つの答えのうち、どれかに手を挙げて下さい。
- 1 注意をする という人。
 - 2 おうちの人や先生に教える という人。
 - 3 その他の方法をとるとい人。

では、「その他」どんな方法があるか聞いてみましょう。

(時間がないときは、「その他の方法について、手を挙げたお友達は、クラスに帰ってから、発表して下さいね。」と、学校に願うする。)

それでは、すね吉君達はどうしたのでしょうか。

すね吉君とウルサちゃんは、ジャイ介君が、万引きしていたと聞き、驚きました。
でも、すね吉君は、ちょっとだけ、ジャイ介君のことを「すごいなあ。」と感じ、
ジャイ介君に聞きました。

すね吉 「ねえ、ジャイ介君、いつも、万引きしているの。」

ジャイ介 「そだよ。全然、平気だよ。」

すね吉君やウルサちゃんは、万引きしたこと、ないの。」

すね吉君は、万引きしたことは無かったのですが、「悪いことが出来る。」と言った方が、格好良いと思い、

すね吉 「うーん。僕は、今まで、万引きする機会がなかったからね。」

と言いました。ウルサちゃんは、

ウルサ 「私は、捕まったら怖いし、悪いことはできないわ。」
と答えました。

挙手を求める。
挙手を求める。
挙手を求める。

1〜2人に聞く。

・ナレーションはゆっくり

・興味深げに
・自慢げに

・格好をつけて

・はっきりと

【場面】

ジャイ介君は、自慢げに言いました。

ジャイ介 「あつ、そうだ。

「このマンガ、万引きしたもだから、ウルサちゃんにあげるよ。」

ウルサ 「えー、良いの。ありがとう。」



演出ノート

- ・ナレーションはゆっくり
- ・自慢げに

・うれしいそうに

・子ども達に語り掛ける。

それでは、ここで、皆さんに質問します。

ウルサちゃんのように、万引きした物を貰うことは、警察に捕まる犯罪になるでしょうか。それとも、犯罪にはならないでしょうか。

手を挙げて答えて下さい。

- ・万引きした物をもらうことは、犯罪になると思う人。
- ・犯罪にならないと思う人。

・拳手を求める。
拳手を求める。

答えは、お話の中に出てきます。どの場面が出てくるのでしょうか。

お話の続きを見ていきましょつ。

ジャイ介君は、すね吉君が、格好つけているように見え、意地悪をしてやろうと、ジャイ介 「ねえ、すね吉君。マンガの続き、読みたいんだろつ。

二巻、今度は、すね吉君が万引きしてきてよ。」

と言ったのです。

・意地悪く

【場面】

すね吉君は、『しまった。』と思いました。
万引きするのは嫌だし、捕まったら大変です。

すね吉 「やつ、やつぱり、ジャイ介君が、万引きした方がい
いよ。ジャイ介君は、慣れてるんだし…」

ジャイ介 「なんだよ。僕にはわかり、悪いことをさせるなよ。
すね吉君だって、万引きしてみたいんだろ?。」

ジャイ介君は、脅かすように言いました。

すね吉君は、「嫌だ。」とは言えず、

すね吉 「うーん。」

と、あいまいな返事をする、ジャイ介君は、

ジャイ介 「じゃあ、頼んだよ。ちゃんと持ってきてくれよ。」

と言い、その話は終わってしまいました。

こうして、すね吉君は、続きの二巻を万引きする約束をしたのです。

それでは、ここで、皆さんに質問します。

ジャイ介君のように、友達に、「万引きしてきて。」と頼んで、友達が本当に万引
きをしたら、万引きを頼んだジャイ介君は、警察に捕まる犯罪になるのでしょうか。
それとも、犯罪にはならないでしょうか。

- ・ 友達に頼んで、万引きさせることは、犯罪になると思う人。
- ・ 犯罪にならないと思う人。

この答えも、お話の中に出てきます。

では、お話の続きを見ていきましょう。

すね吉君は、一人で万引きするのは怖いので、のび彦君に、一緒にお店に行って
もらおうと思いました。

のび彦君なら、優しいから、手伝ってくれると思ったのです。



演出ノート

- ・ ナレーションはゆっくり
- ・ おどおどしながら
- ・ 強い口調で怒ったように
- ・ 困ったように
- ・ 命令するように
- ・ 子ども達に語りかける。
- ・ 拳手を求める。
- ・ 拳手を求める。
- ・ ナレーションはゆっくり

【場面】

すね吉君は、学校でのび彦君を見つけ、声をかけました。

すね吉 「ねえねえ、のび彦君。」

実は、のび彦君に、頼みがあるんだ。」

のび彦 「すね吉君が、僕に頼みごと。嫌な予感がするなあ。」

一体、何だよ。」

すね吉 「実はさあ。ちょっと、本屋に一緒に行って欲しいんだよ。」

のび彦君は、ホッとして、

のび彦 「なあんだ、そんなことが。良いよ。一緒に行ってあげるよ。」

と答えました。すると、すね吉君は、

すね吉 「えっ。良いの。ありがとう。それでさあ。」

そのとき、僕が、本を万引きするから、側で見張りをして欲しいんだ。」

と付け加えてきたのです。



演出ノート

- ・ナレーションはゆっくり
- ・愛想よく
- ・不安そうに
- ・明るく
- ・安心した様子で
- ・明るく
- ・小声で

【場面】

のび彦 「えー、そんなの嫌だよ。」

のび彦君は、断りました。

すね吉君は、困った顔で言いました。

すね吉 「今、『良い。』って言ったじゃないか。

ジヤイ介君に、万引きしてくるようにな頼まれちゃ

ったんだよ。僕、一人では、怖いんだ。

側で見張りをするだけで良いんだよ。頼む。友達だろ。」

のび彦君は、すね吉君があんまり必死なので、

のび彦 「もー、分かったよ。」

と、一緒に本屋に行く約束をしたのです。

それでは、皆さんに、質問します。

皆さんが、のび彦君だったらどうすれば良いでしょうか。

- 1 はっきりと断る。
- 2 万引きしないよう注意する。
- 3 その他の方法をとる。

3つのうち、どれかに手を挙げて答えて下さい。

- 1 はっきりと断る という人。
- 2 万引きしないよう注意する という人。
- 3 その他の方法をとるといふ人。

では、何人かに、「その他」はどんな方法があるか聞いてみましょう。

いろいろな方法がありますね。

(時間がないときは、「その他の方法について、手を挙げたお友達は、クラスに帰ってから、発表して下さいね。」「と、学校に願います。)

では、お話の続きを見てみましょう。



演出ノート

- ・驚いた口調で
- ・ナレーションはゆっくり
- ・困ってお願いするよう

・洪々と

子ども達に語りかける。

- ・拳手を求める。
- ・拳手を求める。
- ・拳手を求める。
- 1〜2人に聞く。

【場面】

二人は、一緒に本屋に行きました。
続きの二巻は、売っていました。

のび彦君は、すね吉君の側で、見張りをしながら、小声で
聞きました。

のび彦 「ねえ、本当に、万引きするの。」

すね吉 「あつ、当たり前じゃないか。ここまで来て、何言ってるんだよ。」

のび彦君は、悪いことには、これ以上、係りたくないと思い、

のび彦 「僕は、見張りをするだけだからね。」
と言いました。

すね吉君は、本当は、怖かったのですが、のび彦君が近くにいたので、気持ちが
大きくなり、マンガを万引きしたのです。

それでは、ここで、皆さんに質問します。

のび彦君は、側で見張りをしていただけです。

見張りをすることは、警察に捕まる犯罪になるのでしょうか。それとも、見張り
をしただけでは、犯罪にならないのでしょうか。

- ・ 見張りは、犯罪になると思う人。
- ・ 犯罪にならないと思う人。

さて、どちらでしょう。

ここまで、

万引きした物をもらうこと。

友達に、万引きをさせること。

見張りをすること。

の3つについて、犯罪になるか、犯罪にはならないか、質問しています。

さて、それぞれの答えは、どちらなのでしょう。

では、お話の続きを見ていきましょう。

二人がお店を出たときです。



演出ノート

・ ナレーションはゆっくり

・ 恐々と

・ 小声且つ強い口調で

・ 小声且つはっきりと

子ども達に語りかける。

拳手を求める。
拳手を求める。

【場面】

店長 「こら。二人とも待て。万引きをしたな。」

すね吉君とのび彦君は、店長さんの大きな声にびっくりして、動くことができません。

近くにお客さんも、一斉に振り向き見ています。

すね吉君が言いました。

すね吉 「あっ。こっ、ごめんなさい。シャイ介君が、『万引きして来い。』って言ったから、やったんです。許して下さい。」

のび彦君が言いました。

のび彦 「僕は、何もとっていません。」

店長は、二人を睨みつけながら言いました。

店長 「誰に何て言われようが、万引きは、ドロボウだ。ドロボウは犯罪だぞ。」

君もだ。何も盗っていなくても、見張りをすれば、同じだ。

犯罪は、警察に捕まるんだ。二人とも、こっちに来なさい。」

二人は、警察署に連れて行かれてしまいました。

それでは、皆さんに質問します。

ここでは、店長さんの気持ちを考えてみましょう。

店長さんは、万引きした子ども達を捕まえたとき、どのように思ったでしょう。

答えてくれる人は、手を挙げて下さい。

(手があがらないときは、次のように語りかける。)

「なんて、悪い子ども達なんだ。」とか「迷惑だ。困る。」などと思うかも
しれませんね。

皆さん、お店には、沢山の品物が並んでいます。それは、全て、お店の人が、
お金を出して買ったものです。

お店の品物を万引きされて、お金がお店に入らず、潰れてしまうお店もあります。
万引きは、お店の人の仕事や生活を奪ってしまう、とっても悪いことなのです。

では、お話の続きを見てみましょう。



演出ノート

- ・大声で
- ・ナレーションはゆっくり

・慌てた様子で

・訴えるように

・強い口調で

子ども達に語りかける。

1〜2人のから聞く。

【場面】

ここは、警察署です。

警察官 「すね吉君。君は、窃盗という犯罪を犯したんだぞ。

分かってているのか？」

すね吉 「僕は、万引きをしただけです。」

すると、お巡りさんは、厳しく言いました。

警察官 「お店の物は、自分の物ではない、他人の物だ。

他人の物を盗めばどろぼうだ。」

【万引き どのぼう せつとう はんざい】をボードに貼る。

警察官 「万引きは、どろぼう。どろぼうは、窃盗と言って、警察に捕まる犯罪だ。

【自分の物と他人の物を区別する】をボードに貼る。

警察官 「すね吉君。犯罪を犯さないため、自分の物と他人の物をしっかり区別し

ないといけないよ。」

すね吉 「はい。僕は、大変なことをしてしまったんですね。ごめんなさい。」

このとき、すね吉君は、自分がとても悪いことをしたことに驚きました。

だから、シャイ介君から、万引きしたマンガを見せてもらったこと、続きのマンガを万引きするよう頼まれたこと、ウルサちゃんが万引きしたマンガをもらったことなど、悪いことをしたいきさつを全て、正直に、お巡りさんに話しました。

すると、お巡りさんは言いました。

警察官 「すね吉君、犯罪を犯せば、それは、自分の責任だ。

万引きを頼んだ人の所為にすることはできないぞ。」

皆さん、今のお巡りさんの話、分かりましたか。

友達や先輩に、「万引きして来い。」と命令されて、仕方なくやったとしても、犯罪を犯せば、自分で責任を負わなくてははいけません。

それでは、皆さんに質問します。友達や先輩に、「万引きしてきて。」と頼まれたり、命令されたときは、どうしたらいいでしょうか。

- 1 はっきり断る。
 - 2 おうちの人や先生に相談する。
 - 3 その他の方法をとる。
- 3つの答えのうち、どれかに手を挙げて下さい。

1 はっきり断る という人。
2 おうちの人や先生に相談する という人。
3 その他の方法をとるといふ人。
では、何人かに、「その他」はどんな方法が聞いてみましょう。

(時間がないときは、「その他の方法について、手を挙げたお友達は、クラスに帰ってから、発表して下さいね。」「と、学校にお願いします。)

はっきり断る。断れないときは、おうちの人や先生に相談しましょう。

では、お話の続きを見てみましょう。



演出ノート

- ・ 厳しい口調で
- ・ おどおどした感じで
- ・ 厳しい口調で
- ・ 間を置き、諭すように
- ・ 反省した様子で
- ・ ナレーションはゆっくり
- ・ 厳しく諭すように
- 子ども達に語りかける。
- 挙手を求める。
- 挙手を求める。
- 挙手を求める。
- 1〜2人に聞く。

【場面】

のび彦君は、お巡りさんに、何も盗んでいないことを分かって欲しいと思いいました。

のび彦 「お巡りさん、僕は、何も盗っていません。

すね吉君が怖いと言っから、側で見張りをしていただけです。

すね吉君が、ジャイ介君に頼まれ、一人で勝手に

万引きしたんです。」

すると、お巡りさんは、厳しい口調で言いました。

警察官 「のび彦君、自分が、直接、盗まなくても、見張りをしただけで、万引きしたことになるんだよ。

その理由は、のび彦君が見張りをしなければ、すね吉君は万引きができなかった。そしたら、お店は、万引きされずに済んだんだよ。

のび彦君は、万引きという犯罪を手伝っていることが分かるだろ。

見張りをすることは、犯罪なんだよ。」

【見はりをする事は犯罪】をボードに貼る。

のび彦 「本当だ。僕、悪いことをしてしまいました。ごめんなさい。」

皆さん、今のお話で、実際に万引きをしなくても、万引きを手伝ったり、近くで見張りをすることは、「万引きしたことになる。」「ということが、分かりましたか。

犯罪に係ることは、やめましょう。

ジャイ介君やウルサちゃんも、どうなったのかを見てもましょう。



演出ノート

- ・ナレーションはゆっくり
- ・訴えるように
- ・厳しい口調で
- ・説明するよつに
- ・間を置いて
- ・驚き反省した様子で
- ・子ども達に語りかける。

【場面】

ジャイ介君が、お母さんと一緒に、警察署に来ています。

警察官 「ジャイ介君、君は、万引きをしたな。

そして、すね吉君に、万引きをしてくるように頼んだな。」

お巡りさんに聞かれると、ジャイ介君は、少しふてくされながら答えました。



ジャイ介 「確かに、万引きはしました。その本は、ウルサちゃんにあげたので持っています。」

万引きは、どろぼうだから、悪かったと反省しています。

でも、すね吉君に『万引きしてきて。』って言ったのは、冗談で言っただけです。」

その答えを聞き、たまらず、お母さんが言いました。

ジャイ介母「ジャイ介は、何を言っているの。」

ジャイ介が頼まなければ、すね吉君は、万引きしなかったでしょう。」

演出ノート

- ・ナレーションはゆっくり
- ・敵しい口調で

- ・ふてくされた口調で

- ・怒った様子で

【場面】

ジャイ介母「万引きをしたり、友達に万引きをさせたり。」

ジャイ介は、いつ、そんな、悪い子になったの。

母さんは、情けない。

お巡りさん。本当に、申し訳ありません。」

ジャイ介君は、いつも元気な母さんが、自分のことで、こんなに悲い顔で、お巡りさんに謝っている姿に、ショックを受け、

ジャイ介「ごめんなさい。」

と、謝りました。お巡りさんが、言いました。

警察官「自分が店に行かなくても、万引きするよう頼んだり、命令して、友達に

万引きをさせることは、犯罪だ。万引きしたことになるんだよ。」

【万引きさせることは犯罪】をボードに貼る。

皆さん。万引きを頼んだり、命令して、友達に万引きをさせたら「冗談」では済みません。お店に行かなくても、万引きしたことになります。

その理由は、万引きを頼む人がいるから、頼まれた人が万引きして、お店は被害を受ける。

被害を受けるお店の立場で考え、万引きを頼んだ人も、「万引きした。」「犯罪を犯した。」ということになるんです。

分かりましたか。

ジャイ介君が言いました。

ジャイ介「本当は、すね吉君が、悪ぶって、格好つけていたから、意地悪で、万引きするよつに言ったんです。

「ごめんなさい。」

今度は、心から謝りました。



演出ノート

- ・泣きそうな口調で
- ・ナレーションはゆっくり
- ・しょんぼりした感じで
- ・厳しく諭すように
- ・子ども達に語りかける。
- ・反省した様子で

【場面】

ウルサちゃんと、お父さん、お母さんが、警察署に来ています。お巡りさんが

警察官 「ウルサちゃん。万引きした本をジャイ介君から、

もらっているね。」

と聞くと、ウルサちゃんは怒ったように、言いました。

ウルサ 「確かに買いました。この本です。」

でも、それだけのことで、何で警察署にまで呼ばれるのですか。」

すると、お巡りさんは、厳しい顔をして言いました。

警察官 「盗んだ物を貰うことは、犯罪なんだよ。」

【盗んだものをもらうことは犯罪】をボードに貼る。

皆さん。万引きしたものなど、盗んだ物をもらうことは犯罪になります。

たとえば、皆さんが大切にしているカードとか、ぬいぐるみを、誰かが盗んだとします。盗んだ人が、別の人に「盗んできたものだから良いよ。」と、あげました。

そうすると、持ち主の皆さんのところには、大切なカードやぬいぐるみは、戻ってきませんね。それで、いいですか。

持ち主の物を守るため、盗むことも、盗んだ物を貰うことや、盗んだ物を買ったことも、やってはいけない犯罪と決められています。

盗んだ物をもらったり、買ったりすることは、絶対にやめましょう。



演出ノート

・ナレーションはゆっくり

・厳しい口調で

・怒った強い口調で

・厳しい口調で

・子ども達に語りかける。

【場面】

お巡りさんは、言いました。

警察官 「ウルサちゃん。お店の人は、万引きした人も、その品物を買った人も、同じくらい、許せないんだよ。」

ウルサちゃんのお父さんが言いました。

ウルサの父「ウルサは、自分のやったことが、『お店に迷惑を掛ける、とても悪いことなんだ。』ということが分かったかい。」

ウルサ 「はい。私、自分が盗んだ訳じゃないから、良いかと思っっていました。」

「ごめんなさい。」

ウルサちゃんは今度は、素直に謝りました。お母さんも

ウルサの母「ご迷惑をおかけしました。」

と、謝りました。



演出ノート

- ・ナレーションはゆっくり
- ・厳しく論ず口調で

・論すように

・反省した口調で

・悲しげに

【場面】

すね吉君とのび彦君のおうちの人が、警察署に来たところで、皆が、一つの部屋に集められました。

お巡りさんが、子ども達四人に、怖い顔をして言いました。

警察官 「君達は、警察に捕まる、犯罪を犯したんだ。」

『犯罪だと知らなかった。』などという言い訳は、通用しないぞ。

何故、お母さん達が泣いているのか、お父さん達が、今、どんな気持ちなのか、分かっているのか。」

のび彦君とウルサちゃんは、お母さんが泣いている姿を見て言いました。

のび彦・ウルサ「やって良いことか、悪いことをしっかり考えず、やってしまいました。ごめんなさい。」

ジャイ介君も、慌てて言いました。

ジャイ介「遊び半分でやりました。ごめんなさい。」

すね吉君も言いました。

すね吉 「僕も、万引きをしたことがある。『うて自慢したいと思い、やったんです。悪いことができるなんて、自慢になります。』ごめんなさい。」

あーあ。本当だ。

お母さん達は、涙を流しています。お父さんも、悲しそうな顔をしていますね。

このときの、お父さんやお母さんは、どんな気持ちか、考えてみましょう。

- 1 子どものことを怒っている。
- 2 裏切られたとショックを受けている。
- 3 その他。

3つの答えのうち、どれかに手を挙げて下さい。

- 1 子どものことを怒っている と思う人。
- 2 裏切られたとショックを受けている と思う人。
- 3 その他だとと思う人。

では、何人かに、「その他」どんな思いか聞いてみましょう。

(時間がないときは、「その他の気持ちについて、手を挙げたお友達は、クラスに帰ってから、発表して下さいね。」と、学校にお願いする。)

お父さんやお母さんは、皆さんが悪いことをすると、叱ったり、注意すると思います。それは、皆さんに「良い子に育て欲しい。」と願っているんです。

そして、皆さんの様子を見て「良い子に育てているな。」と信じています。

でも、このお話のように、信じている自分の子どもが、警察に捕まるような犯罪を犯していたと知ったときは、とても残念で、悲しい思いをします。

うちの人を悲しませるようなことをするのは、止めましょう。

四人の言葉を聞くと、お巡りさんは、言いました。



演出ノート

・ナレーションはゆっくり

・大きな声で厳しく

・素直に

・慌てて

・反省した様子で

子ども達に語りかける。

- 挙手を求める。
 - 挙手を求める。
 - 挙手を求める。
- (1〜2人に聞く。)

【場面】

警察官 「いいか。君達に、約束してもらいたいことが二つある。

【判断する力を持つ】をボードに貼る。

警察官 「約束の二つ目は、『やって良いことが悪いことか、判断する力を持つ。』というんだ。」

【強い意志を持つ】をボードに貼る。

警察官 「約束の二つ目は、『悪いことはしない、悪いことに流されない、強い意志を持つ。』というんだ。

この二つは、大人になってからも、ずっと、大切なことなんだ。

みんな、この二つをしっかりと守っていくこと、お巡りさんと、約束できるかい。」

四人は、お巡りさんの顔をしっかりと見ながら、真剣に答えました。

「はい。約束します。」

警察官 「そうか。それでは、今日は、全員、おうちの人と一緒に帰りなさい。

君達には、この後、何回か警察署に来てもらうよ。」

それでは、皆さんに質問します。お巡りさんが言った二つの約束。

『やって良いことが悪いことか、判断する力を持つ』

『悪いことはしない、悪いことに流されない、強い意志を持つ』

自分も、できるという人、手を挙げて下さい。

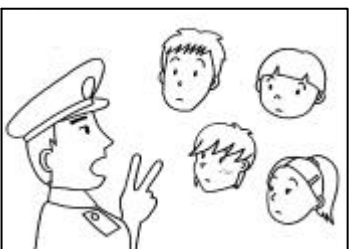
ありがとうございます。大切なことです。しっかりと、身に付けていきましよう。

お巡りさんは、最後に言いました。

警察官 「みんな、この後、大切なことを忘れずにやるんだぞ。」

皆さん、お巡りさんが言う「大切なこと」とは、何でしょう。

次の場面を見てみましょう。



演出ノート

・諭すように

・素直に元気よく

・はっきりとした口調で

子ども達に語りかける。

挙手を求める。

・教えるように

【場面】

子ども達四人と、それぞれのお父さん、お母さんは、警察署から出ると、そのまま、みんなで、お店に行き

「ごめんなさい。」

と、謝りました。

店長さんは、怒って言いました。

店長 「いいかい。君達は、軽い気持ちで万引きしたと思うが、万引きで潰れてしまっ

まっ店もある。

そのくらい、万引きは、お店にとっては重大な問題なんだ。

もう、一度と万引きはしないと約束できるのか。」

四人は、万引きでお店がつぶれるという話を聞き、驚きました。

店長さんが、お店を守るため、自分達を本気で怒るのは当たり前だと分かり、

「もう、一度と万引きはしません。」

「約束します。」

「本当に、ごめんなさい。」

と、心から真剣に謝りました。

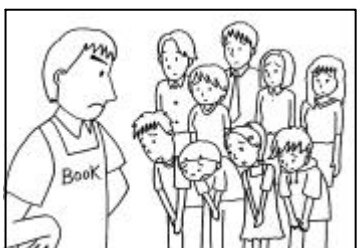
皆さん、お話を聞いて、

「万引きすること。見張りをすること。万引きを頼むこと。万引きした品物をもらうこと。こういうことは、どれも、警察に捕まる犯罪である。」

ということが、理解できましたか。

警察に捕まるような犯罪は、絶対にやらないと約束してくれる人。

ありがとうございます。



演出ノート

・ナレーションはゆっくり

・素直な口調で

・大きな声で

・心から反省して

子ども達に語りかける。

拳手を求める。

【おしまい】

演出ノート



お話の中にもあったとおり、大人になってからも、ずっと大切な二つのこと、

子ども達に語りかける。

「やって良いことが、悪いことをしっかり判断する力を持つ。」

「悪いことはしない、悪いことに流されない、強い意志を持つ。」

この二つをしっかりと身につけ、他人に迷惑を掛けず、正しい行動がとれる、お兄さん、お姉さんになりましょう。

それでは、これで「考えよう。やって良いこと 悪いこと」のお勉強をおしまいにします。

おしまい